



ダニ媒介感染症に注意しましょう



ダニ媒介感染症とは

自然な野山に生息するダニは、ヒトに病気を引き起こす病原体(ウイルスやリケッチア、細菌など)を保有していることがあります。ダニ媒介感染症とはこれらのダニに咬まれることによって起こる感染症のことで、全国的には死亡例が報告されているものもあります。ダニの種類によって保有する病原体は異なるため、それぞれのダニの活動時期に患者が多く発生することが知られています。

○秋から冬にかけて発生が認められる主なダニ媒介感染症

疾患名	主な症状	主な発生時期	全国の年間発生数	茨城県の発生状況
<u>ツツガムシ病</u>	発熱、発疹、刺し口が主要三徴候。頭痛、発熱、倦怠感を伴うこともある。	春先～夏・秋～初冬	400～500 例	年間 10 例前後
<u>日本紅斑熱</u>			300 例前後	年間 1-2 例程度 ★2019 年に初めて確認されました

<その他のダニ媒介感染症感染症>

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

発熱、消化器症状を主張とし、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。致命率は約 30%とされています。春先から夏にかけての報告が多いものの、秋冬にも一部報告されています。全国で年間 100 例前後の報告がありますが、茨城県ではこれまで確認されていません。



ダニ媒介感染症の予防について <ダニに咬まれないように注意しましょう！>



◇ 屋外での活動時には

- 長袖・長ズボン・帽子・手袋の着用、首にタオルを巻く
腕・足・首などの肌の露出を少なくしましょう
- ダニに対する虫よけ剤の使用

◇ 帰宅時には

- 服にダニが付着していないか確認
明るい色の服を着ていると、ダニを目視で確認しやすくなります
- シャワーや入浴でダニに咬まれていないか確認
特にわきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)に注意



ダニに咬まれてしまったときは

ダニが吸血しているのを見つけた時は、無理に取り除かず、医療機関で処置(ダニの除去や洗浄)をしてもらいましょう。皮膚に突き刺さったダニの口器が残り化膿することがあります。

ダニに咬まれた後は数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けるようにしましょう。またその際は、屋外で活動した日時と場所などを医師に伝えるようにしましょう。

